

【宝塚市】
校務DX計画

1. 本市の校務DXの現状について

・ネットワークの統一と指導者用端末の整備

本市では、GIGAスクール構想の開始時（令和3年）、児童生徒には1人1台のタブレット端末が整備された。その一方で、教員が授業で活用する端末は、普通学級数分の配当であったため、理科や音楽等の特別教室で活用する端末はなく、全ての教科の授業準備という点では十分といえる環境ではなかった。2022年に文科省のセキュリティポリシーに関するガイドラインが改訂されたことをきっかけにネットワーク統合を実現した。

これにより、校内のどこでも校務系・学習系問わず使用可能になり（ロケーションフリー）、児童生徒と共に、教員にも1人1台端末の整備を完了した。また、学校現場だけでなく、教育委員会事務局も指導主事を中心として同じ環境を構築して整備している。学校間のやり取りがこれまで以上に迅速かつ簡易、そしてセキュリティも担保した形で実現できている。

・クラウド環境を活用した校務DXについて

ネットワーク統合を実現したことにより、Teamsを中心とした汎用的クラウドツールを利用することで、授業での活用だけでなく校内での情報共有、そして、市内の学校間での連絡が迅速に行えるようになり、学校間での連携・情報共有を図る環境が構築できた。

また、アンケートのデジタル化をFormsを使って実施するなど、保護者・学校の双方の負担・業務の軽減を図っている。

2. 今後の校務DXの計画について

・クラウド環境のさらなる活用について

令和7年3月に、運用を開始した次世代型校務支援システムと連動する市内で統一した保護者連絡アプリを導入した。これにより、欠席・遅刻・早退連絡や各種配布物の送付といったことが可能となった。

また、そのデータを校務支援システムに取り込むことができることから、教員の余剰時間を創出し、子どもたちと向き合う時間やスキルアップのための研修を受ける時間の確保が可能となると考える。

・FAX・押印の原則廃止について

FAXについては、業者とのやり取りでE-mailに対応できない業者もあることから順次対応していく。押印については、学校から提出されるものはデジタル化を図ると同時に押印を見直し、押印の必要のないものについては原則廃止を徹底していく。